

◎五輪出場への情熱実感



竹田 英司

日本代表として世界中を転戦していた小野寺太志選手が帰国した。本来ならゆっくりしてほしいところだが、秋に広島で開催されるバレーボールワールドカップ（W杯）男子大会のPRを兼ねてインタビュー撮影が合宿所で行われた。

カメラを向けると自然な笑みがこぼれて驚いた。聞けば「さすがに取材慣れました」という。世界を転戦して、バレーだ

けではなく人間的にも成長したようだ。
思えば4月、ビザ取得の手伝いをした時のこと。証明写真が必要なことを伝えると、「やっぱりひげはそったほうがいいですか」と聞いてきた。「ひげをそるのは試合前と決めているんですよねえ」。顎をさすりながら話す小野寺選手が印象的だった。

現状では、サンダーズの選手で東京五輪の日本代表入りに最も近いのが小野寺選手といえる。もちろん他の選手も諦めていない。ある日、居残り練習を切り上げようとした井上航選手を中島健太選手が怒鳴りつけた。「もう帰る気か！ そんなことで五輪代表になれると思っているのか」

航選手は声にならない雄たけびとともにコートに戻った。航選手もまた、日の丸を狙っているのだ。皆の努力が報われ、サンダーズのメンバーが一人でも多く五輪のコートに立ってほしいと切に願う。



バレーボールW杯男子の広島大会をPRする小野寺選手（左）